

○議長（小林哲雄）

引き続き、一般質問を行います。

10番、小林秀樹議員、どうぞ。

○10番（小林秀樹）

10番、小林秀樹です。

日曜議会、今日最後として私のほうで質問させていただきます。私のテーマ、市・町連携で酒匂川施設の活用を促す、でございます。

酒匂川左岸、川音川が酒匂川に出会うところに三角土手というところがあります。ここの松が枯れております。両岸には今、1,100本以上の松があるのですが、その中でも最大のものとして、治水上も多くの人に安心と希望を与えるシンボリック的存在です。対岸の松であるが、見過ごしはできないと感じます。また、流域として見るときに、左岸の整備は随分進んでいると思います、完了までの見通しは明るいように私も感じます。一方、開成町側、右岸ですが、未開発や未着手地や遊休地など、私から見ると宝の山があるなというふうに感じております。今後、関連市・町と県西土木に期待するところであります。

課題もあります。新たな時代背景、こうした中で開かれた町のさらなるイメージアップと、訪問客増による増収を期待できる酒匂川の施設活用につき質問いたします。新たな時代背景とは、例えば二つありまして、一つは、県西地域活性化プロジェクト募集というものが4月にございました。町は、新たな観光の核づくり促進を五次総合計画にリンクさせて提案されました。これは、非常に残念なことでありますが、採用されませんでした。このことについては、また時間があれば後ほど触れてみたいと思います。二つ目は、町政60周年、これが来年の2月1日に迎えます。大きな開成町の転換点かなというふうに思っております。この60周年に向けての取り組みがスタートするわけで、非常に重要な昨今であると思います。

質問ですが、県はサイクリング道の新たな活用法を関係市・町に投げかけているが、どう進んでいますか。行政の大小ではないと思います。南足柄、開成、小田原につながるサイクリング道路ですが、中核の開成町が積極的に率先してはどうかと考えます。

二つ目。酒匂川河川敷堤内地や橋脚部などの遊休地活用事業を検討し、にぎわいとともに財政の増収に結びつくような県西土木に働きかけて事業を推進すべきだと考えます。例えば、一つ、十文字橋上流にパークゴルフコースを増設して現在の27ホールから全36ホール化にしてはどうか。二つ、足柄大橋下流の高水敷を青少年や団体、個人の健康活用場所として活用してはどうでしょうか。三つ目、ふれあい館展示室と水防資材倉庫を分離して、前者は拡張を、後者は橋脚下に移動されてはいかがでしょうか。

以上でございます。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

小林秀樹議員のご質問にお答えします。

酒匂川は、開成町にとって母なる川であります。災害をもたらす存在であると同時に町民に潤いを与えレクリエーションの場を提供するなど、開成町にはなくてはならない存在となっております。また、堤防の松や富士山の風景など、町のシンボルでもあります。その活用は、町の大きな課題でもあります。また、この５月に町民センターで開催された「小田原・足柄の歴史・文化を目で見て語り合う合同展示会」では、酒匂川ネットワーク会議も参加をされ、その取り組みが紹介をされておりました。そのような活動に改めて敬意をあらわすものであります。そのような認識の上で、お答えをしたいと思います。

まず、サイクリング道の活用ですが、これまで神奈川県青少年課と何回か事務的な調整を行ったことはあります。最近では、平成２６年４月に県青少年課との間で施設の移管について事務的な意見交換の機会がありました。町からは、一つ、県がサイクリング道を安全な施設として再整備及び財産権の整理をすること、二つ、２市１町が連携できる場を設けることの２点を要望しております。町としては、自転車のまちづくり推進の観点から、サイクリングコースを利活用した事業展開、例えば、自転車の駅事業やレンタサイクル事業などを行うため、小田原市、南足柄市と連携して移管を受ける方向で検討していきたいと考えております。

次に、水辺スポーツ公園のパークゴルフ場についてであります。開成水辺スポーツ公園は今年４月２９日に２０周年を迎えました。関東初のパークゴルフ場で、これまで全国大会やあじさい・しいがしカップの開催など、パークゴルフを通じて町内外から多くの愛好者が来場し、にぎわいを見せております。開成水辺スポーツ公園総利用者数は、平成２５年度実績で１１万２，６７２人です。前年度比２，４２２人プラスとなっております。うちパークゴルフ場利用者人数は８万８，８４８人、これも前年度に比べて３，５７１人の増加となっております。パークゴルフ場で利用者割合は７８．８％を占めております。

愛好者の一部からパークゴルフ場増設について要望があることは承知をしておりますが、平成２５年度、パークゴルフ場利用実績は増加しているものの、既存の２７ホールでの通常運営において、混雑による入場、利用者制限等を行った事例は見受けられておりません。年間で３６ホールを要する大会は６大会、あじさい・しいがしカップ、全国大会、本間カップ、２００２クラブカップ、ペアマッチであります。野球場を利用した特設コースの対応で、大会の運営に支障は来しておりません。

河川区域内の土地において工作物等の建設を行うには、河川管理者である神奈川県の占用許可を受けることが必要となります。新たに９ホールを増設する場合には、護岸や堤防への影響、新たに９ホールを増設する必然性等について、河川管理者である神奈川県との十分な協議を要することになります。第五次町総合計画においても増設の計画がなく、河川管理者との協議に加え計画策定や予算の確保等の必要性が生じるため、現時点において９ホール増設の予定はありません。将来的にパークゴルフ場増設の必要性が生じた際には、施設の利便性や効率性を考慮し、酒匂川水辺プランに基

づく占有許可エリアである開成水辺スポーツ公園内における増設を検討していきたいと考えております。

次に、足柄大橋下流の高水敷の利用であります、河川法の制約があり、県との協議調整が必要であります。現状では、その活用や整備を行う考えは特に持ってはおりません。

次に、ふれあい館は酒匂川の水防施設として九十間堤防及び祖師堂堤防の要に位置をし、緊急時の対策本部としての役割や防災備品の保管施設としての役割を果たすために神奈川県が建設したもので、現在は町に管理を委託されております。ふれあい館は展示スペースと水防倉庫から成り、土・日は展示スペースで酒匂川の歴史や水系に生息する魚類などを紹介しております。ふれあい館の周辺は、聖牛、木工沈床、釜段工などの酒匂川の水防に利用する施設を展示し、水防の必要性などを啓発しております。また、ふれあい館の展示室は緊急時の対策本部詰所となるところであり、県としては現状の規模で十分としております。

次に、水防倉庫では、県の水防資機材と町の水防資機材を保管しております。現在の設置場所は以前から水防資機材倉庫が設置されていたところで、緊急時の対策本部のそばにあるということで、その機能が十分発揮できるものであります。したがって、ほかの場所に倉庫等の施設を新たに設置する予定は今のところ考えておりません。

以上であります。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

それでは、答弁にありましたものを含めながら、順番にお尋ねしていきたいと思えます。

まず、サイクリング道の件でございます。2市1町がかかわっています。サイクリング道としては9キロなのです。南足柄、開成町を通過して小田原の富水まで。その9キロの各自治体のエリアというのが、南足柄は1キロ、開成町は5キロ、小田原市は3キロなのです。その中の距離的にいっても、また中心的な存在からいっても、開成町が一番重要であり、また開成町に利益をもたらす要素でもあるはずで。

そこで、先ほどの答弁の中にも、両市、それから開成町としても、それぞれに県のほうに見解を述べておられます。県としても、確かに、両市、開成町の要望というか活用というのを受けとめているのですが、県がなかなか県として、その先を動いていただけないのではないかなと。私、何度か、このことで訪ねているのですが、そのニュアンスでは、なかなか2市1町に早急に集まっていただくなり、そういう会合の場を持ってこれを進めようとする、どうも意思が感じられない。したがって、ここでは主たる開成町が何度も何度もプッシュしていいのではないかなと考えます。開成町やらなくして、ほかの市は、どうも腰が弱いと思えます。

具体的には、その内容を聞いておりますけれども、ここでは申し控えさせていただきます。とにかく開成町として、この問題に積極的に。結果は、どういうふう、や

はり難しい問題もあるかもしれませんが、糸口をつかんでいながら、それを中身を追求できないというのは、ちょっと後ろ向きではないかなというふうに考えます。まして、60周年を来年に迎える。それから、先ほど質問の中に、県西の活性化プロジェクトという中でエントリーをしたわけなのですけれども、このエントリーの内容が、ほかの市・町に比べて非常にすぐれたものと私は受けとめています。ただ、それが審査の段階でそういうふうを受けとめられなかったということでは、落ちたわけなのですけれども。ただ、これが今後も続くという、この制度が続くだろうという一縷の望みはあります。したがって、サイクリング道についての活用について、さらに、今までの町の見解だけでなく、2市1町をまとめるような勢いで県を動かしていただきたいなというふうに考えます。これについてのご見解をお願いいたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

この件について全く進展がないわけではなくて、県のほうから移管という方向性が少し示された中で、2市1町の中で、先ほど申しましたけれども、単に譲り受けるのでは困る。特に、ふれあい館の前で死亡事故があったということもありますので、あの広さのままで受けるというわけにはいかない。受けるには受けるだけのきちんと整備をしていただくというのは、県に対して、これは2市1町で申し合わせをしていますし、2市1町で協議をしながら県に対して移管の方向で、どういうふうにしたら移管してもらえるか、また、移管してもらっただけではなくて、きちんと移管されるべき整備をしてもらって移管をしていかないと、町にとっても大変な負担にもなってしまいますので。サイクリングコースについては重要性を町としても認識はしておりますので、うまく整備をしてもらいながら移管できるような方向で調整はしていきたいと今後も思っています。

○議長（小林哲雄）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（池谷勝則）

私のほうから、事務的なところについて説明させていただきます。今、話題になっているサイクリングコースにつきましては、議員から今、説明がありましたように、南足柄の大口の広場から小田原の富士道橋までが指定されているところでございます。こちらにつきましては、およそ8.9キロということの距離があるのですが、今、町のほうからも、もう大分古くなっておる施設ですので、今、町長が説明しましたように危険性もありますので、その整備をというようなことをうたっておるのですが。

開成町も、サイクリングについては利用をどんどん進めるというような位置づけにはしておるのですが、この道路、サイクリング道路、開成町だけ単品でいただくわけにはなかなかできません。つながっている小田原、南さんとあわせて進めていきたい。その中で、特に小田原市さんにつきましては、酒匂川の河口まで延伸することを前提に、それが終わった後では考えるよということをお願いしているところが

あると神奈川県から聞いております。開成町につきましても、こちらの整備とあわせて小田原市さんの流れ、方向性を協議させていただいて、南足柄市と合わせて、2市1町合わせての移管を目標に進めていきたいと、このようには考えております。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

私のつかんでいる範囲では、今、町長、あるいは課長がおっしゃった内容でございます。その中で、県がなかなか行動として出ないということを私を感じますので、ぜひ。実際、計画して投資するというのは、なかなかすぐにはできませんけれども、会議の場を持って、そこで皆さんで、2市1町で話し合うと、県を含めて、これは重要なことではないかと思っておりますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

それでは、次の質問に行かせていただきます。酒匂川の河川敷の活用の中で、十文字橋、新十文字橋と旧十文字橋、十文字橋ですね、その間の、今、雑草地になっていきますけれども、そこをパークゴルフで利用したらどうかと。面積的には、踏査した中では2,400平米、これは県の積算でも同等の値です。ただ、幅が狭いところで8メートル、広いところで17メートル、長さとしては170メートルあるのですけれども、そういう面で、若干、今までの3コースには違った地形にはなりますけれども、近隣の市・町のパークゴルフ場を見ても、コースを見ても、それに匹敵した、あるいは、それ以下というか、いろいろなコースのとり方がありますので、利用しようとするれば、もちろん可能であると思えます。

先ほどの答弁の中では、年間を通して大会がたくさんあるのですけれども、混雑による入場や利用制限を行ったことは今までにないと。混雑するから、あるいは利用制限があるから、こういうことを考えるのではなくて、その前に、とにかく90%ぐらいの利用者があるわけです。水辺公園全体の90%がパークゴルフ場の利用者なのです。その90%を、さらに率を伸ばすのではなくてパーク場の利用者を伸ばすということでは、広げることは有効ではないかというふうに考えます。

もう一つ、大会の運営に支障を来していないという表現もありますけれども、支障を来すから広げるということではなくて、利用者サービスとして先取りしたコースを開設するということが、今、開成町の進んだ行政ではないかというふうに思います。もちろん、これには多額なお金はかかると思えます。したがって、先ほども申しました県西のプロジェクトの中でのそういう考え、あるいは作業日程の含みもありますけれども、一概にはできないかもしれませんが、そういうチャンスがあれば、ぜひ、それを生かしてパークゴルフ場を増設して、ひいては町の増収の一助になればというふうに考えます。

それから、二つ目で足柄大橋下流の高水敷の問題でございますが、確かに、水が多く出ると、非常にそこはリスクが多くて流される危険はあります。ただし、年間を通して多くの日数については、そこを利用できるわけです。そこで、私は、狭い開成町ですから、せつかくある場所、これは開成町の土地でないことは確かなのですけれど

も、それは契約によって利用可能だというふうに考えますので、青少年やグループ活動をする人たちへの提供の場所として、青春やストレスの放出場所にも適するのではないかと。先ほど議員の質問にもありました落書きの問題、それから、あの場所での楽団の練習、それから、ほかのバーベキュー等が行われております。そういったことを積極的に場を提供して、青少年あるいは若者あるいはファミリーの場所にしてはどうかというふうに考えます。もう一つ質問させていただいて、お答えをいただきたいと思います。

それから、三つ目は、酒匂川の水防施設としてのふれあい館ですが、ふれあい館は、確かに、機能としては緊急時の水防の集まり、それから、そこでの作業というのがありますが、多くの日数については通常のふれあい館として皆さんに利用していただく。そこで多くの方が酒匂川について学び、水防について学び、防災について学ぶのです。その機会を、より広げて拡大していくことも必要ではないかと。そこで、あの場所をそのまま使うとなると、いずれかがどこかに移動しなければならないという問題があって、そうしたらば近くの大橋の下の開閑地に移動してはどうかと。開成町の狭い地域の中で大橋の下を使うことは、町の土地ではないかもしれませんが、これは契約によって利用することも可能だと思います。貴重な空間を、ぜひ有効に利用して、また有効な人を呼べるようなふれあい館、また水防倉庫となるようにお願いしたいと思います。

長くなりましたけれども、三つについて簡単に、ごめんなさい、ご答弁をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員、一つ目のパークゴルフ場の増設について、明確な質問がないので答えるほうが困るのですが、もう一度、1項目目のパークゴルフ場の増設について、簡単に質問内容をまとめてもらえますか。

○10番（小林秀樹）

はい。パークゴルフ場の利用者の、先ほど8割の方がパークゴルフ場を利用されているので、それを、さらに利用者を増やすためにパークゴルフ場の拡大をしたらいかがという質問でございます。

○議長（小林哲雄）

わかりました。

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（岩本浩二）

議員のご質問にお答えいたします。

水辺スポーツ公園は、基本的に高水敷にございます。高水敷は複断面の形をした河川であるというようなことで、平常時にはパークゴルフ場をはじめ水辺スポーツ公園として活用しているというようなことでございますが、大きな洪水等があったときには水につかるというようなこと、河川であるというようなことから、それが前提であるというふうに認識をしてございます。

その上で36ホール目をつくるに当たりましては、サイクリングコースのお話もございましたけれども、移管のタイミング等も加味して、既存の27ホールと一体的に使えるものであるほうが利便性の観点からも望ましいのではないかと考えてございます。そのようなことを加味して、有効ではないかというようなことでございましたけれども、時期、要望、計画等を加味して今後検討してまいりたいと考えてございます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

企画政策課長。

○企画政策課長（亀井知之）

2問目の足柄大橋下流の高水敷について、お答えさせていただきます。

まず、高水敷でございますが、高水敷があるからここを活用するというのは、行政のあり方としてはいささか違うのではないのかなと思っています。要は、要望とか、このようなものをぜひつくるべきだというふうな形で計画にのっとって、町のほうが、それに応じて必要だとなったときに、それが、では、どこの場所になるのか。それは高水敷でなければならないというふうになったときには、ちゃんと県との間で協議・調整は行います。ですから、繰り返しますけれども、水に流されるおそれのある高水敷があるから、そこのところに何かつくりなさいというのは、これはちょっと議員のお考えとは異なると私どもは解釈させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（小林哲雄）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（池谷勝則）

最後にありました、ふれあい館の関係でございます。こちらのところの内容でございますが、水防倉庫、こちらにつきましては、答弁にもありましたように、県の材料と町の材料が入っていて、なおかつ、今現在、通常時、使っている展示スペースについては作業の詰所という形の中では、一体化されたところで行いたいというのは神奈川県も考えているかと思います。逆に、これを分割して何がいいのかというのが、ちょっとわからなくなるところでございます。提案されているところについては、ちょっと距離もあるというようなこと、ふれあい館の位置からちょっと距離があるところ、そちらの連携がとりづらいという部分、これらもありますので、町としても特に新しく施設をつくるとか分割するという考えは持っておりません。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

新十文字橋と十文字橋の間に9ホールという話がありましたけれども、基本的に、課長が言われましたように、サイクリング道の移管にあわせて9ホールの増設も考えてはいるのです、実は。場所が、あの場所ではなくて、実は、もう十文字橋から九十

間土手までは水辺の管理の指定の中に入っていますので、計画の中に、その中に増設を考えていくというほうが自然であり、また、新十文字橋のほうは酒匂川が増水したときに浸水する、今までも浸水している場所でありますので、あそこにつくる増設というのは今、考えていなくて、それより今ある公園内の中にもう 9 ホールできればという考えでありますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

小林秀樹議員。

○10 番（小林秀樹）

いろいろと答弁をいただき、ありがとうございました。私の言いたいことも何とか申し上げたのですが、いずれにしても開成水辺公園の活用を主体に酒匂川流域の土手を含めた活用を、ぜひ、これからも町として新たな六次計画をリンクさせて進めていただきたいと要望しまして質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。